

窓 明

「アホなことして」では収まりそうにない。阪急阪神ホテルズが端緒になったメニユーの虚偽表示は社長が辞任し、各地

のホテルに飛び火した。失墜した信用を取り戻すのは容易ではない▼最初は誤表示と言いついて逃げていたが、使っていた食材の単価、品数や店の数と期間―素人でも見分けがつきそうな食材の「嘘」は限りなくグレーに近い。プロの料理人ならなおさら。批判にたまりかねてか「偽装と受け取られても仕方ない」と発言を修正した▼普段行く店でもメニューの写真よりみずぼらしいとムカッとする。庶民にとって有名ホテルでの飲食は、束の間の非日常を楽しむ機会だけに許せない。ブラックタイガーや普通の豚バラ肉なら家でも食べられる▼それにしても、このところ大手企業の不祥事が続く。株主利益を優先する米国流の新自由主義の浸透で目先の利益ばかりに目を奪われているとの批判を聞く。おまけに企業合併で「大男総身に知恵は回りかね」では、いただけない▼石門心学の祖・石田梅岩は「商人の道は正直と儉約」と説き、主人は儉約して経費を削り、その分を利益に回すのではなく、商品の値を下げることに使えば客が喜び、売り上げも利益も増えていくと諭す▼「儲ける」という字を分解すると諸人（多くの人）になるが、大阪の老舗料亭生まれの俳人・楠本憲吉さんは組み合わせを変え、儲けるとは「信者」をつくることと解説した。暖簾を大事にする商いが結局は長続きする。「みんなやってまっせ」は通用しない。（二）